

令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価

(令和6年2月6日現在 中間報告)

東栄町第6次総合計画 後期計画 (令和3年度～令和7年度)

基本目標 豊かな文化と心を育むまちづくり

○基本施策1 学校教育

- 1-1 一人ひとりに応じたきめ細かな教育の推進
- 1-2 知・徳・体が調和した教育の推進
- 1-3 連携教育の推進
- 1-4 食育活動の推進
- 1-5 小中学校の施設・設備の充実
- 1-6 高校への就学支援

○基本施策2 家庭・地域による連携教育

- 2-1 家庭教育への支援
- 2-2 子どもの居場所づくり

○基本施策3 生涯学習・生涯スポーツ

- 3-1 生涯学習の充実
- 3-2 スポーツ活動の充実
- 3-3 総合社会教育文化施設の充実と利用促進

○基本施策4 文化の保存と継承

- 4-1 伝統文化の継承
- 4-2 文化財の保存・継承環境づくり

○基本施策5 多様な学びの場

- 5-1 人権尊重の推進
- 5-2 国際交流を通じた多様性への理解

個別施策	令和5年度の実施(達成)状況	得られた効果と今後の課題
<p>1-1 一人ひとりに応じたきめ細かな教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「保小中連携教育」を具体化するために、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）等検討委員会を組織し、開設に向けて協議を重ねた。 ・小中学校の校内現職研修を中心に、教員の指導力の向上を図った。また、教職員が日常的に児童生徒の情報を共有する場を設定し、実態把握に努めた。 ・児童生徒の状況に応じて教員やスクールカウンセラーによる相談や家庭訪問を行い、不登校やいじめ等の早期対応や防止に努めた。 ・アプリ「心の天気」を活用し、児童の毎日の実態把握を行った。 (小学校) ・特別に支援が必要な児童生徒に対しては特に細かく配慮して、教職員の共通理解を基盤にした丁寧な指導を行った。 ・小中学校に通級学級を設置し、個に応じた学習を支援した。 ・小中学校に支援員を配置し、個の特性に応じて学校生活と学習を支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士や教職員に「めざす子どもの姿」案を意識していただいた。視察やシンポジウムを含めて8回の委員会を開催し、令和6年4月に開設する準備ができた。 ・授業研究を中心とする校内研修を行い、児童生徒の実態を把握する力や指導力を高めた。いじめや不登校などの問題の早期発見と解消、個に応じた対応につながった。 ・児童生徒と個別に話して状況を把握し、職員全員で指導の方向性を明確に共有して対応できた。不登校児童生徒への対応のさらなる工夫と不登校の解決、いじめの早期発見と正確な把握が課題である。 ・一人ひとりの毎朝の状況が把握でき、児童理解と個別指導に大きな効果があった。 ・学校生活に適応して、力を伸ばすことができた。義務教育終了後を見通して方針を立てて指導することと教職員の勤務への配慮が今後必要である。 ・児童生徒の実態に応じた支援を行うことで、学習への興味を維持し、理解を進めることができた。 ・特別に支援が必要な児童生徒個々に対応できる支援員を配置することによって、児童生徒の活動への集中を持続したり学習の理解を深めたりすることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用して個々に適した課題を出したり、考えを表出する場を設定したりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に学習意欲が高まった。挙手による発言に消極的な子どもの考えを授業に反映できた。
<p>1-2 知・徳・体が調和した教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標に示し、小中学校の教育活動全体を通して計画的に取り組んだ。 ・「保小中連携教育」を具体化するために、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）等検討委員会を組織し、開設に向けて協議を重ねた。 ・小中学校の校内現職研修を中心に、教員の教育観を高め指導力の向上を図った。東栄小学校はNIE実践指定校及びキャリアスクールプロジェクト事業委託校として研究に取り組んだ。 ・総合的な学習の時間を工夫し、中学校では「共生タイム」で町に関わる追究学習に、小学校ではふるさと学習で地域についての学習に取り組んだ。 ・ALTを配置し小中学校の英語教育の質の向上を図った。 ・計画した中学生海外派遣事業がコロナ感染症の影響で実施できず、国内での泊を伴う語学研修とカナダの交流校とのオンライン交流で目的の達成を図った。 ・感染症や熱中症に配慮しながら体育活動に取り組んだ。部活動は働き方改革により休業日を設けて実施した。東栄中学校は愛知県学校体育優良校として表彰された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を具体化し適切に指導した。全人的に子どもをとらえる視点を今後も重視したい。 ・8回の委員会を開催し、6年4月に開設する。主旨が町民に広く理解され、より多くの方に協力していただけるようにする必要がある。 ・授業研究を中心とする校内研修を行い、教科指導・生徒指導をはじめとする各種の指導力を高めた。 ・地域の多くの団体や個人の協力が得られ、町について知ったり体験したりする多様な活動が定着し、内容もいっそう充実できた。中学生は明神祭で学習の成果を発表した。 ・話す力・聞く力が意識され、ネイティブの発音に触れてコミュニケーションへの意識が高まっている。 ・代替事業によって目的の一部が達成できた。渡航体験による成果には及ばないが、会話や交流への意欲を高め、技能の向上と達成感を感じさせることができた。 ・熱中症予防への配慮から体育活動が制約されることがあり、対応を検討する必要がある。中学生の体力は県平均より高く、特に持久力が優れており、教育活動の成果と考える。個人差が大きい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを道具として様々な場面で活用した。健康への配慮から、利用法について保護者とともに学ぶ場を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での活用、欠席時のオンラインでの授業参加など、学習に効果が認められる。児童生徒は利用に慣れてきている。
1-3 連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「保小中連携教育」を具体化するために、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）検討委員会を組織し、開設に向けて協議を重ねた。 ・地域連携教育情報交換会の成果を生かし、小中学校と地域の連携を推進した。 ・北設楽中高一貫教育に取り組み、サマーセミナーへの参加、数学・英語の交流授業、お仕事フェア、文化祭等の交流を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士や教職員には「めざす子どもの姿」案を意識して指導に取り組んでいただいた。4月開設後は、連携について地域の方とも共有を図りたい。 ・多くの団体が協力していただき、学校と地域との連携が進んだ。保小中学校間の相互理解が活動の充実につながった。 ・高校生の学校生活や各種の取り組みを知り、進路選択の参考にできた。田口高校へは〇名が進学した。
1-4 食育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の「愛知を食べる学校給食の日」をはじめ、給食の歴史をたどるメニューを給食週間に出す、季節を感じる献立を出すなど特色ある給食を工夫して提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養職員と生徒のコミュニケーションも多く、食に対する関心が高まり、残食もない。個に応じた量について検討したい。
1-5 小中学校の施設・設備の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生全員に1台ずつ貸与したタブレットを活用するために、必要なアプリを整備した。 ・小学校の教室棟の廊下及び床、中学校の自動火災報知設備及び給食運搬用エレベーターを改修した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想の実現に向けて活用している「心の天気」は児童理解に成果がある。個に応じた効果的活用、自宅での効果的活用をする観点から、アプリを補完する必要がある。 ・快適に学習できる環境整備ができた。今後は定期的なメンテナンスを計画的に行うことが望まれる。中学校は必要に迫られた改修であり、今後も各所の対応が予想される。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校施設長寿命化計画を策定した。 ・一般財源により、中学校入学者への夏用ポロシャツを配付した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の施設について、正確に現状を把握し、今後改修を進めるための資料が整った。計画的に安全で快適な学習環境を整備したい。 ・高温化が進み熱中症が危惧される中、安全かつ快適に学校生活を送る一助となった。
1-6 高校への 就学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・高校への就学を支援するために、通学費用や授業料の一部補助を継続して行った。 ・高校生の通学にも配慮して、町営バスを運営した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学の交通費や下宿代、授業料等就学に必要な費用の一部を補助することによって、家庭の負担を軽減するとともに、進路選択の幅を広げることができた。 ・通学に不便を来さないバス運営ができた。

個別施策	令和5年度の実施(達成)状況	得られた効果と今後の課題
<p>2-1 家庭教育への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「保小中連携教育」を具体化するために、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）検討委員会を組織し、開設に向けて協議を重ねた。 ・小中学校とも家庭との連絡を日常的に行い、必要な情報を交換した。 ・保護者会、学校保健委員会等の場で、発達段階や実情に応じた家庭教育の方向性を示した。また、必要に応じて個別に懇談し、考えを共有した。 ・スクールカウンセラーを継続配置し、保護者の相談に対応できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での指導の指針になる具体的な目標を学校・園・保護者・地域が共有することをめざし、学校運営協議会を令和6年4月に開設する準備ができた。 ・メール、ホームページ、東栄チャンネルの活用など方法を工夫して、情報提供ができた。 ・現状の課題について情報発信ができた。また、個々の課題に対して共に考え、解決の方法を支援できた。どの保護者とも信頼関係をいっそう深めたい。 ・専門家を配置し必要に応じて相談を受けることができた。より活用しやすくしたい。
<p>2-2 子どもの居場所づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域見守り隊活動を依頼し、登下校の安全を図った。 ・通学路交通安全対策連絡会を開催し、交通安全の促進を図った。 ・小中学校ともに総合的な学習の時間を中心に、地域を理解し地域を愛する心を育む学習を計画的に実施した。 ・学校の希望と地域の要望を活かして地域の力を取り入れた学習活動を行い、児童生徒と地域との関りを深めた。 ・生涯学習講座にワークショップの場を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・20名の隊員の協力により、安全を保障するとともに、地域の方と触れ合う機会となった。 ・3回の会議を行い、通学路の現状や危険箇所について各機関と情報を共有し、安全に登下校できるように方策を協議した。 ・町に関する学習活動の機会が増え、より多くの人と交流できた。中学生は明神祭でその成果を発表した。地域の一員としての自覚をいっそう高めたい。 ・昨年度までの地域連携教育情報交換会の成果として、小中学校と多くの機関、団体が連携した活動ができた。 ・関心のある活動を経験する場、多様な活動に触れる場が増えた。

個別施策	令和5年度の実施(達成)状況	得られた効果と今後の課題
3-1 生涯学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育・体育施設などを活用して19の講座を開設し、延べ76回を開催した。1回終了の講座を8講座実施した。 ・令和6年3月現在、延べ34名のボランティア指導者が活躍している。 ・文化祭、町民芸能まつりを開催し、文化活動の発表の場を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の関心に講師が意欲的に応えていただき、充実した講座を実施できた。1回終了の講座にも多くの参加者があった。 ・指導者の高齢化への対応と新たな人材発掘が引き続き必要である。 ・文化祭には32団体の出展、芸能まつりには13団体の出演があり、好評を博した。
3-2 スポーツ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・B&G事業として、カヌー教室、カヤック体験の講座の際に水辺の安全教室を行った。 ・希望の多いスポーツ講座を開設するとともに、団体の活動を支援した。 ・名古屋グランパスサッカー教室と中日ドラゴンズ野球教室、ネオフェニックスバスケットボール教室を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・B&G事業として活動を推進し、水泳技能の上達や安全に対する意識向上に寄与した。 ・各種スポーツ愛好者に活動の場を提供できた。高齢化や参加者減への対応が課題である。 ・子どもたちの技能や意欲を高める場になった。野球教室は、森投手と福永選手の尽力により、子どもたちの意欲を大きく高めた。
3-3 総合社会教育文化施設の充実と利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館・プールは例年並みに利用できた。プールの排水管破損による漏水があり修繕した。 ・総合文化施設の管理運営については、シルバー人材センターを指定管理者として適正に管理を行った。 ・グリーンハウスの照明をLEDにした。また、花祭会館及び体育施設の高圧受電設備を改修した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が回復した。気温の上昇に対応した熱中症対策、高齢者の活用推進と、年間を通じたプールの利用方法の工夫が課題である。 ・計画的な運営と施設整備を行った。コロナ感染症の5類移行によって利用者が回復した。 ・計画的に改修を進めた。利用促進に向け定期的に展示を入れ替えたい。博物館の資料整理と、将来的な利用方針の検討が必要である。

個別施策	令和5年度の実施(達成)状況	得られた効果と今後の課題
<p>4-1 伝統文化の継承</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症5類移行への対応と、将来への継承のための方策を共有するため、4回目の花祭り保存会長会を開催した。 ・県費を有効活用し無形民俗文化財に対する補助事業を実施し、小林地区の舞庭用はそり昇降機設置と河内地区の衣装新調を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区の考えを出し合い共有することで、各地区で継承のための対策を工夫して、例年に近い形で花祭りが開催できた。 ・花祭後継者育成の意欲付けの一助となった。
<p>4-2 文化財の保存・継承環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国県指定の無形民俗文化財と、県町指定無形民俗文化財の保存団体に補助金を交付した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催と保存のために必要な経費や道具・施設の整備に使われている。10地区が様々な工夫をし、次代の子どもたちへの継承が途切れないように開催していただいた。 ・コロナ感染症の5類移行を受けて、従来の姿に近い形で花祭りが開催できた。各地区の人口減少は大きな課題である。

個別施策	令和5年度の実施(達成)状況	得られた効果と今後の課題
5-1 人権尊重の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校とも人権学習を実施した。日常的に児童生徒観察と教職員間の情報共有を行い、いじめを見つけて対応するとともに、人権週間の重点的指導など各種の学習を年間指導計画に位置付けて、人権意識の高揚に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめにつながる児童生徒の行動の早期発見と指導ができており、他者への思いやり、差別を許さない意識、命を大切に作る心を育てることができた。それぞれの子ども状況を把握し、組織的に個に応じた対応ができた。
5-2 国際交流を通じた多様性への理解	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生海外派遣事業を計画したが、コロナ感染症の影響により中止した。 ・代替措置として、外国人留学生との京都への2泊3日の語学研修を実施した。また、カナダの交流校であるRCA校とのオンライン交流を3日間行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外での生活の実体験から学ぶことは多く、その場面を提供できなかった影響は大きい。 ・ホテルやバスの車中を英語で過ごすことで疑似的な体験ができ、生徒も意欲的に取り組んで有意義な体験として受け止めている。オンライン交流も生徒の英語や文化に対する意識を高める効果があった。